第　５　回

はぐくみの軸強化方針検討会

議　　事　　録

日　時：２０２２年１０月４日（火）午後１時開会
場　所：ホテルモントレエーデルホフ札幌　１２階　ワグナー

１．開　　会

○事務局（岩田都心まちづくり課長）　定刻となりましたので、ただいまから第５回はぐくみの軸評価方針検討会を開催いたします。

本日は、お忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局の札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室の岩田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元に配付いたしました資料は、次第、資料１の座席表、資料２のはぐくみの軸強化方針検討会委員名簿、資料３の第５回はぐくみの軸強化方針検討会（論点資料）、資料４のはぐくみの軸強化方針（本書イメージ）でございます。

本日は、委員のうち、愛甲委員、岡本委員、高野委員、森委員が欠席となっております。本日欠席されている委員へは、事前に資料をご説明しており、ご意見を伺っておりますため、後ほどご紹介をさせていただきます。

また、事務局として、札幌市都心まちづくり推進室、業務受託者である株式会社日建設計、さらに札幌市みどりの推進部ほか関係部署の職員が出席しております。

報道各社におかれましては、この後の写真撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。

また、本日の検討会について、個人に関する情報など非公開情報を除き、会の次第、出席者氏名、発言者等を記載しました議事録を作成し、公表いたしますので、ご了承ください。

それでは、以降の会議の進行は村木座長にお願いしたいと思います。

村木座長、よろしくお願いいたします。

２．オープンハウスの開催報告

○村木座長　皆さん、こんにちは。

それでは、早速、始めさせていただきたいと思います。

次第に従いまして、事務局からオープンハウスの開催報告をお願いいたします。

○事務局（岩田都心まちづくり課長）　９月１１日と１２日の２日間、チ・カ・ホにおきまして、本方針の概要を市民の方々にパネルでお示しし、ご意見をお聞きするオープンハウスを開催いたしましたので、その概要について、スライドを用いて説明させていただきます。

○事務局（佐藤推進担当係長）　それでは、私からご説明させていただきます。正面のスライドをご覧いただきたいと思います。

今回のオープンハウスは、検討中の方針の概要を市民の皆様に知ってもらうこと、来場した方にご意見をいただき、方針に反映させることを目的として開催いたしました。

左側のチラシのとおり、オープンハウスのタイトルを大通沿道のまちづくりと都心のみ

どりづくりといたしました。本方針との関係が深く、連携整合を図ることとしております都心のみどりづくり方針に関するパネル展示、意見収集も併せて実施してございます。

右上にございますけれども、２日間の開催で合計４２０名の方にご来場いただきまして、みどりの推進部と合同で開催したことで、より多様なご意見を聴取できたものと考えてございます。

はぐくみの軸強化方針の検討チームからは、方針の概要や現時点での検討内容を７枚のパネルにまとめて展示いたしました。

まず、１枚目と２枚目でございます。左側に、大通沿道のまちづくり方針ということで、はぐくみの軸強化方針を策定することとした目的や、はぐくみの軸に関する基本的な情報をお示しし、３枚目と４枚目には、まちづくりや社会の動きということで、まちづくりに関わる動向や、それを踏まえて方針で目指すものというところで理念を皆様に見ていただいた後、５枚目と６枚目ですが、はぐくみの軸の１２の将来像をお示しして、市民の皆様に３枚のシールを貼っていただいております。

続きまして、最後のパネルですが、方針を策定した後、どういうようなまちづくりを目指すのかということで最後にまとめているところでございます。

こちらは、先ほどご説明したとおり、共感する将来像を最大三つ選び、シールを貼ってくださいということでご案内しまして、シールを貼っていただきました。

その結果がこちらのスライドでございまして、将来像⑦の居心地がよく歩きたくなるまちが最も多くなりまして、次いで、将来像⑩のみどりが２番、将来像①の象徴性が３番となりまして、これらの将来像につきまして皆様に共感をいただいたという結果になってございます。

１日目と２日目のご来場者は全く違う方なのですけれども、２日とも同じような傾向が出たのは面白いといいますか、現場で対応していてそのように感じました。

次のスライドでございます。

こちらはご参考までにでございますが、都心のみどりづくり方針に関するパネルでございます。

こちらに表示しているものは、都市全体の緑づくりについて説明するパネルとなってございまして、続きのスライドですけれども、先ほどのパネルのほかに、はぐくみの軸にも大きく関係する大通公園に関するパネルもみどりづくり方針のパネル展示の中でご紹介したところでございます。

こちらは、都心みどりづくり方針でも都心の魅力が高まる緑の機能についてということで、共感できる機能にシールを貼っていただきました。

こちらがその結果ですけれども、居心地の良い空間になりますという項目が最も多く、次いで、自然とふれあう機会を生み出します、空間の個性を生み出しますという順に共感が得られたという結果になってございます。

展示の最後には、大通周辺の大判地図を用意しまして、はぐくみの軸強化方針、都市の

みどりづくり方針の概要パネルを見ていただいた方から、大通沿道のまちがこういうふうになってほしいとか、今後、大通公園でこういう過ごし方をしたい、都心のこんなところに緑があったらいいということにつきまして自由意見を伺っております。

伺ったご意見は付箋に記入して、上側の写真にございますとおり、大判地図の上に旗として立てていきました。

下の画像はオープンハウス終了時に真上から撮影した写真ですけれども、大通公園の上をはじめとしまして、駅前通や創成川周辺、知事公館のエリアなどにもご意見が特に集中しているということが見て取れます。

なお、特定のエリアにひもづかないようなご意見に関しましては、一番下でございますけれども、地図の枠外に挿していったところでございます。

いただいたご意見は、今後、分析を行いまして、方針への反映を検討していきますけれども、本日は、いただいたご意見の例を幾つかご紹介したいと思います。

今写っている写真は、はぐくみの軸強化方針で西Ａゾーンとしている中の大通西３丁目や４丁目付近でございます。東西に比べて南北につながる緑が少なく感じるですとか、地下と地上にお店がいろいろある通りがあって、これからも楽しいものであってほしいというような様々な意見がありました。

次のスライドですけれども、西Ｂゾーンとしている中の写真でございまして、年齢など関係なく互いに楽しめる空間をつくりたいとか、オープンカフェがあったらいいというようなご意見がございました。

続きまして、西Ｃゾーンの写真でございますけれども、公園や緑と文化の場にしたい、大通周辺エリアについては、子どもたちの未来のために力を入れてほしいとか、西のほうは、あまり行かない、静かな場所という特色を生かしたほうがよいとか、資料館中心のまちづくりが楽しそうというようなご意見をいただいているところでございます。

こちらは、東ゾーンとしている中の東４丁目線付近でございます。

チ・カ・ホでパネル展をやったということもあり、東ゾーンに関してのご意見はあまり頂戴できなかったのですけれども、その中でも、街路灯を増やしてほしいとか、サッポロファクトリーまで地下道が延びたらよいとか、歩道が狭いといったご意見がありました。

今日ご紹介していないご意見も、市民の方から合計４００を超える自由意見を頂戴いたしましたので、それは今後分析いたしまして、反映できるものは反映し、最終的には本書の資料編という形でその結果を添付していく予定でございます。

説明は以上です。

○村木座長　ありがとうございました。

今のオープンハウスの内容について、何かご意見があったらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○村木座長　ご意見が特にないようなので、次に移りたいと思います。

事務局から、第５回の検討会資料のご説明をお願いいたします。

○事務局（岩田都心まちづくり課長）　本日使用する資料は、この資料３と、はぐくみの軸強化方針の本書のイメージである資料４でございます。

まず、資料３をご覧ください。

資料３につきましては、表紙の左側に本日の論点を記載しております。この後ご説明いたします資料４の内容について、こちらの論点に沿ったご意見をいただければと考えております。

めくっていただきまして、１ページの概略スケジュールをご覧ください。

本日は、方針策定に向けた５回目の検討会です。本日、ご意見をいただいた後、次回の第６回検討会に向けて内容の精査、取りまとめを行い、その後、パブリックコメントや第７回検討会での最終確認を経て方針を策定する予定です。

次に、２ページをご覧ください。

こちらは、前回いただいたご意見と、それに対する対応の方針となっております。

個別の説明は割愛いたしますが、特にナンバー９の将来像設定までの経緯の補足ですとか、ナンバー１５のゾーンごとの断面図に関する表現などについて検討に反映しております。

次に、Ａ４判の資料４をご覧ください。

こちらは、最終版の方針本書をイメージして作成したものですが、詳細の内容や紙面のデザイン等につきましては、引き続き、見直し、修正をかけてまいります。その点についてご了承の上、ご意見をいただければと思います。

まず、１ページの目次をご覧ください。

方針本書は、ご覧のとおり、第１章の目的と位置づけから第６章の取組の推進にあたってまでで構成しております。

本日は、この中で、赤枠で囲んでいる箇所についてご意見をいただきます。

第１章及び第２章については、前回の検討会でご提示した内容を更新したものとなっておりますので、お時間の都合上、説明は割愛させていただきますが、先ほどの資料３の対応方針に記載のとおり、記載内容を調整しております。

本日は、第３章の更新箇所と第４章以降で追加した部分を中心にご説明いたします。

ページを飛ばしていただきまして、２９ページをご覧いただきたいと思います。

第３章、「はぐくみの軸」全体の強化方針の内容として、前回の検討会においても、現状、課題、動向等より抽出した視点から目指すべき将来像を導き出しておりましたが、その経緯が分かりにくいとのご意見がありましたので、構成の見直しを行いました。

左上の１から２１までの番号をつけた項目は、第２章の現状、課題、動向などから抽出した視点です。それらを三つの分野、まちの発展に関連する分野、市民の暮らしに関連する分野、環境保護や防災に関連する分野に振り分け、それぞれに分類される視点を要約することにより、目指すべき将来像の柱となる重視すべき視点を設定いたしました。

設定した重視すべき視点は、下にありますとおり、市民の愛着の醸成と魅力の発信、より快適で豊かな暮らし、持続可能なまちづくりの三つです。

これらの視点と「はぐくみの軸」沿道まちづくりの理念、１５０年間で育まれてきた大通の価値を再認識し１００年先の未来をはぐくむというものを踏まえまして、右側の３０ページの１２の目指すべき将来像を設定いたしました。

個別の将来像については、前回ご確認いただいておりますので、本日、説明は割愛いたしますが、今回、それぞれの将来像に対するイメージスケッチを追加いたしました。

３１ページをご覧ください。

各スケッチは、個別の施策等を表現しているものではありませんが、目指すべき将来像の大まかな雰囲気が読んでいる方に伝わりやすくなることを意図して掲載しております。

続きまして、３９ページをご覧ください。

これまでご検討いただいていたように、はぐくみの軸は四つのゾーンに分けておりますが、西Ｃゾーンから東ゾーンまでの赤枠で囲ったゾーン区分の説明の下に各ゾーンの特性の要約を記載しております。

めくっていただきまして、４１ページ以降でございます。

４１ページ以降は、西Ａゾーンから順番に、ゾーンごとに周辺図や道路断面、現況写真、主な特性、課題を記載し、さらに、次のページに、特性や課題を踏まえて想定される主な取組を断面イメージに落とし込む作業を行っております。

４３ページ、４４ページをご覧ください。

こちらは、西Ａゾーンの評価の考え方と想定される主な取組を記載しております。

なお、各ゾーンとも、イラストについては現在調整中のものとしてご覧いただければと思います。

西Ａゾーンの強化の考え方は、育んできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむとしております。

想定される主な取組としては、例えば、４３ページの右端の中段ですけれども、市有地の利活用とか、同じく４３ページの中央上段の札幌市時計台、さっぽろテレビ塔、大通公園、創成川公園などを生かした都市空間の形成などを掲げております。

なお、各取組のうち、枠線で囲っているものにつきましては、全ゾーン共通で考えられる取組でございます。

続きまして、４７ページ、４８ページをご覧ください。

西Ｂゾーンの強化の考え方は、居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う都市の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむとしております。

想定される主な取組としては、４７ページの中央下段のイベント開催時の大通公園と周辺のパブリックスペースの一体的な活用ですとか、４８ページの中央下段の沿道建物から大通公園までの空間をつなぐパブリックスペースの創出や利活用などを挙げております。

続きまして、５１ページ、５２ページをご覧ください。

西Ｃゾーンの強化の考え方は、都心西側の回遊拠点を形成し、美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむとしております。

想定される主な取組としては、５１ページの右端中段の周辺の歴史的資源やまち並みなどと調和した建物外観デザインの工夫ですとか、５２ページの中央上段の周辺の既存施設とのつながりを意識した道路緑化の強化や新たな緑の創出などを挙げております。

続きまして、５５ページ、５６ページをご覧ください。

東ゾーンの強化の考え方は、創成東地区の資源と創成川以西の活力を活かした創造性豊かな職・住環境と人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむとしております。

想定される主な取組としては、５５ページの中央上段の大通公園、創成川公園の連続した緑を創成川以東まで波及させる連続性のある空間の創出ですとか、５６ページの中央中段の多様な人材の集積、交流を促すための多様な滞在環境の整備などを挙げております。

ここまでがゾーンごとに想定される主な取組をまとめたページですけれども、それらを一覧表にしたものを５７ページ以降に掲載しております。

５７ページをご覧ください。

表の左側に、将来像と取組の方向、右側には、ゾーンごとに想定される主な取組を記載しております。

取組を想定するゾーンは緑色の矢印で表現しており、西Ｃゾーンから東ゾーンの全ゾーンにまたがって矢印のあるものが先ほどのゾーンごとの断面図中に枠線で囲っている取組となります。

前回の検討会では、取組の方向は、大まかな方向を示すよう修正した上で、単に各ゾーンに丸をつけるのではなく、ゾーンごとにどういう取組があるのか具体的に記載をしていくというふうにブレイクダウンして表現すべきであるというご意見をいただきました。

これを踏まえ、取組の方向の抽象度を上げた上で、適宜、項目を統合し、さらに、各ゾーンでどういった取組があるのかということを具体的に記載するようにしたつもりです。

続きまして、第５章、重点的に進める取組でございます。

６５ページをご覧ください。

この章では、方針の実現のため、第２次都市まちづくり計画で定めるはぐくみの軸の考え方や、第２次まちづくり戦略ビジョンとの関係、また、オープンハウスで居心地がよく歩きたくなるまち、みどり、象徴性が多くの共感を得たことなどを踏まえ、１から３の重点的に推進する取組を設定いたしました。

また、はぐくみの軸上で具体的なまちづくりを推進していくに当たり、各取組をばらばらに進めるのではなく、相互に考え方の整合を図りながら連鎖して展開させていくという考えを示すものとして四つの取組を設定いたしました。

まず、１番目、大通・創世交流拠点における象徴的空間の創出についてですが、まちづくりの骨格軸の交点を含む大通・創世交流拠点におきまして、市有地の活用も検討しつつ、

民間開発と連動しながら象徴的な都市空間の創出を目指してまいります。

当面の取組として、街区間の連携を考慮した複数街区における連鎖開発や、大通西１丁目・西２丁目街区などの市有地の利活用の検討などを進めていきます。

続いて、２番目は、大通公園を中心とした東西方向へのまちづくりの波及についてですが、このはぐくみの軸強化方針の対象エリア外にはなりますが、大通公園西周辺エリアには、北海道知事公館や北海道立近代美術館といった貴重な緑があること、一方、大通公園より東側の東ゾーンでは、公園などのパブリックスペースが不足し、創成川より西側の活力の引き込み等が課題であることから、大通公園を中心とした東西方向へのまちづくりの波及を目指してまいります。

当面の取組として、大通公園西周辺エリアのまちづくりビジョンの策定や、これと連動したさっぽろ芸術文化の館跡地の利活用の検討、創成川以西のにぎわいを創成川以東まで波及させる連続性のある空間の形成などを進めてまいります。

続いて、３番目、道路空間の利活用の検討についてですが、居心地がよく歩きたくなるまちづくりを推進していくため、官民共同で実証実験などを実施し、道路空間の利活用を検討していきます。

当面の取組としては、道路空間を活用した実証実験の実施や、これを踏まえた施策の検討などを進めていきます。

４番目、地域の取組の連鎖につきましては、東西に長いはぐくみの軸上で、札幌市として、新たな地域の取組を醸成しながら、各地域の特色を生かしたまちづくりを官民連携で連鎖的に展開していくことで、将来像の実現を目指していきます。

当面の取組としましては、地域主体のまちづくり勉強会などの支援や、地区ごとのまちづくりルールなどを踏まえた都市計画制度の活用などを進めていきます。

最後に、取組の推進に当たっての考え方を第６章にまとめております。

６８ページをご覧ください。

市民、企業、行政などが目指すべき将来像を共有し、官民協働により具体的なまちづくりを進めていく、そのために実証実験なども含めて段階的に取組を進め、効果や課題を検証しながら、必要に応じて方針を見直していくという考え方を示しております。

方針本書のイメージの説明は以上でございます。

最後に、本日欠席された委員の皆様から、この資料についてご意見をいただいておりますので、主なものをご紹介いたします。

まず、愛甲委員からのご意見でございます。

資料の３４ページをもう一度ご覧ください。

将来像の⑦居心地がよく歩きたくなるまちについてですけれども、単に移動のみを注視していますが、居心地のよさが説明されておらず、そのためには、滞留する空間や休息する場所などが必要なことも記述すべきであるといったご意見です。

それから、４３ページをご覧ください。

４３ページの右端の下段、それから、次の４７ページ、４８ページについても同様ですがということで、この中で緑について記載する部分についてですけれども、周辺の既存施設等々のつながりを意識した道路緑化の強化、新たな緑の創出ということだけでは大通公園と沿道の緑が連続性に欠けていること、一体的なつながりをつくっていく、創出していくという方向性を表現できていない、大通公園の沿道と連携する緑化の工夫ですとか、沿道に公園と連続する緑化を設けるなどといった点も加える必要があるといったご意見をいただいております。

４４ページで、左側の上段に居心地がよく歩きたくなるまちについて記載がありますけれども、こちらに、大通公園と沿道との間に居心地のよい空間の連続性を確保するといった取組についても記載してはどうかといったご意見です。

５２ページをご覧ください。

こちらは西Ｃゾーンのページですけれども、大通公園から周辺の既存施設、特に文化施設等への沿道も含め､連続した緑化や景観への配慮があることが望ましいということです。

５５ページ、５６ページをご覧ください。

こちらは東ゾーンについてですけれども、東ゾーンにつきましては、課題でも挙げられているとおり、遊びに利用できるスペースが少ないので、連続した緑の波及ですとか、それから、５５ページの下段中央の市有地の利活用において、具体的に市民が余暇を過ごし、子どもが遊べるスペースを確保することを取組として挙げてはどうか、それから、このゾーンでは居心地がよく歩きたくなるまちの取組をさらに記載すべきであるといったご意見がありました。

以上が愛甲委員からのご意見でございます。

続きまして、森委員からのご意見です。

２９ページ、３０ページをご覧ください。

３０ページに、１２の将来像が並列の要素のように並んでおり、これが並列の要素のように見えるのだけれども、大きな目標が分かりにくくなっている、全体としてどういう姿を目指しているのかが分かりにくい、はぐくみの軸の全体像やイメージの共有が必要である、象徴性がオープンハウスでも市民に共感を持たれていたし重要である、大通公園が持つ札幌都心の象徴性を継承するなどキャッチーなイメージが必要である、そして、その象徴性を担保していくため、ソフト面ではライフスタイルなど、ハード面では緑のネットワークなど、それぞれの取組が象徴性の担保に向かっていくという構成もあり得るのではないかということです。

２９ページで抽出した視点を分野ごとに整理をしていて、その中で、ピンクで囲ってあるまちの発展に関連する分野という記載がありますけれども、開発だけではなく、今まで育まれているものや価値を継承するという視点も大事であり、価値の継承についても言語化をして、発展と価値の継承の両立を表現していただきたい、それから、市民も大事にしている象徴性を大事にするため、屋外広告物については景観保全型広告整備地区を計画す

るなど、象徴性を継承するための記載があってもよいといったご意見をいただいております。

その次に、岡本委員からのご意見でございます。

６ページをご覧ください。

６ページの１－５、本方針の活用イメージの図が分かりづらい、各ゾーンで、市民、企業、行政等が取組を進め、それが連携していくことで将来像の実現につながっていくといったフローを示せるとよい、それから、難しいかもしれないが、前回の検討会で発言した生理的な安心感を表現できないか。例えば、外出中に何か体調不良を起こしても救急体制が整っているといったように、誰もが安心して来訪できることを表現したいということです。

続きまして、６０ページをご覧ください。

６０ページの将来像⑤ユニバーサルの欄ですけれども、取組が少ないのが寂しい、このユニバーサルの欄と６１ページの将来像⑦居心地がよく歩きたくなるまちにつきまして、居心地のよさにつながる取組が現在は記載されていない、ユニバーサルと居心地のように複数の将来像に同じ取組が入ることもあり得るけれども、書き方を整理していただきたいということです。

それから、これまでの開発でもそうだったと思いますが、個々の地域の開発は、まちづくりの方針に沿って頑張っていても、別の開発と少しずつ取組の方向がずれて、結果として調和が取れていないというケースがあると思う、隣接する敷地間における連携といったことをどこかで書けないかということです。

最後に、６８ページのＰＤＣＡサイクルのところですけれども、この方針の見直しだけではなく、上位計画の第２次都心まちづくり計画へのフィードバックということも記載すべきであるといったご意見をいただいております。

長くなりましたが、資料の説明につきましては以上でございます。

４．意見交換

○村木座長　それでは、意見交換をしたいと思いますけれども、今日の論点は先ほどの資料３の表紙に書かれていまして、１点目の「はぐくみの軸」全体で目指すべき将来像については、これまでの検討会を踏まえた内容の精査とかイメージの表現ができているのか、２点目のゾーン別の現状と課題、取組の方向については、これまでの検討会を踏まえての想定される主な取組例が整理されて市民や事業者などに伝わりやすいようになっているか、３点目の「今後重点的に進める取組」と「取組の推進にあたって」については、本方針の実現を図るため適切な設定となっているか、こういうことが記載されているわけですが、これについてご意見をいただければと思います。

特にどこからということはございませんので、お気づきのことがありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大谷委員　資料４の５３ページからの東ゾーンの話になりますが、５４ページ右下の強化の考え方というところで、創成東地区は「創造性豊かな職・住環境と人にやさしく」云々となっています。その後、５５ページ、５６ページのパースや書かれていることを見ますと、ほかのゾーンと同じで業務系のビルなどをイメージしているように見受けられて、集合住宅が入ってくるなり、これからも住宅が入ってくることを考えますと、住宅が入ってくることでこういうことを意識してやっていただきたいということをもう少し記載していただくとよいと思いました。

○事務局（佐藤推進担当係長）　それを踏まえて、パース等も工夫していきたいと思います。

○村木座長　ほかにはいかがでしょうか。

○石塚委員　事前にいただいた資料から精査が進んでいるということで、そのタイムラグをうまくのみ込めているかどうか分かりませんが、先ほど、欠席された委員からのご指摘にもありましたように、今回、いろいろな目標像に対して、それを実現する主な取組例をお示しいただいたことで、分かりやすくなっていますし、具体性が出てきていると思いますが、それは１２の目標像にひもづけされた取組例ということで示されているので、取組例相互の関連によって実現する将来イメージが把握しづらくなっている面があるような気がします。

例えば、大きく言えば、居心地のよい歩きやすい環境といったときに、単に道路空間の話だけではなくて、緑化の問題もありますし、バリアフリーの問題もユニバーサルデザインの問題もあるし、いろいろな要素が重なり合って、居心地よく、かつ歩きやすい環境ができてくると思うのですが、その関係性が捉えづらくなっている面が気になりました。

では、具体的にどうすればいいかということですけれども、今回、ゾーンごとにかなり具体のイメージをお示しいただいていることを踏まえると、ゾーンごとの評価の考え方の下に直接ポンチ絵と取組例の羅列ということではなくて、取組例相互が関連し合って実現している将来イメージのようなものですね。将来像と似てはいるのですけれども、こういう取組を組み合わせて、こういう空間にしていきたいのだという将来イメージを前段に書くことによって、市民の皆さんや企業の皆さんに、どういう大通を目指しているのか、はぐくみの軸を目指しているのかということがより伝わりやすくなるのではないかという気がしました。森委員がおっしゃられていることも、多分、そういうことだったのではないかという気がします。

それから、最後のほうで、取組がゾーンごとにどこに関連しているのかを整理していただいているのですけれども、このように一覧で見ると、前回もそういう嫌いはあったのですが、逆にゾーンごとの特色が分かりづらいように感じられるのですけれども、今回、取組例の下に、括弧書きでさらに具体のヒントになるようなキーワードを書いていただいていると思います。

例えば、象徴性で言うと、Ｃのところの「沿道建物から大通公園までの空間を繋ぐパブ

リックスペースの創出や利活用」と。これだけを読むと、どういうことを目指しているのかが分かりづらい面がある分、括弧書きで「民間開発の創意工夫による機能配置、民間開発等との連携によるみどりの創出など」ということで具体の例示をいただいています。

これを読むと、市民も何を目指そうとしているのかが分かりやすいと思います。括弧書きで「など」と書いてあるので、必ず実現するという根拠づけをもって書いているのではなく、こういうことなどを想定しながら実現に向けてみんなで一緒にやっていきたいということだと思うのです。

この括弧書きをもっと増やしていただけないかという思いがあります。ところどころに「利活用」だけで止まっている指摘がありますけれども、どう利活用するのかが伝わらないともったいないと思います。

それから、大きく言うと、西ゾーンと東ゾーンで、大通公園に面しているか面していないかということで分けてあるところがあるのですけれども、創成東についても関連することは結構あるのではないのかと思うところがあります。

例えば、景観形成の話ですけれども、大通公園があるほうは景観重点区域の取組が既にやられているので、その継続ということになっています。ただ、東のほうは何も触れられていません。東のほうも同様に、景観まちづくり指針でもいいのですけれども、景観のビジョンをちゃんと示していくのだということをバランスよく提示していったほうがいいという気がします。

屋外広告物の規制についても、大通公園だけにとどまらず、豊平川につながる創成東についても何らかの良好な景観形成をしていく必要性があるなと思うので、そういった点も含めて、特に抜けている部分に関して本当に抜けたままでいいのかというチェックをしていただけるといいという気がしました。

それから、ささいなことですけれども、歴史的資源やまち並みとの調和とか、既存施設とのつながりを意識した道路緑化の強化などは全区域に関連しているのですけれども、そこに括弧書きで固有名詞を入れることによって、それぞれに対象範囲を示す矢印が別々なのに同じ文言が何度も書かれている状態になっていると思います。

これも、分かりやすくするためには、全区間を一つのくくりにして、括弧書きだけゾーンごとに書くという形でシンプルな表現にしていただいたほうが市民の方々も分かりやすいのかなという気がしました。

また、先ほど岡本委員がユニバーサルの書き込みが少ないのが寂しいという話をされていましたけれども、逆に、健康的な取組も、実は、どの季節にも歩きやすいというのは、次の居心地がよく歩きたくなるまちを実現する取組でもありますし、大通公園の環境を建物内部へ引き込むしつらえという話に関しては、３番目の大通らしい魅力あるライフスタイルと関連するので、もしかしたらもう少しシンプルにできるのかもしれません。将来像が１２もあると、将来像を一目瞭然に把握しづらい面が出てきていると思うので、そこら辺をご検討いただければなという気がしました。

ついでに言うと、「大通公園」と「沿道」と「大通」と「大通沿道」という言葉が使い分けられていますけれども、実際に中身を読むとそれらが混同して使われている部分があると思いますので、そこら辺は分かりやすく整理していただけるといいと思います。

重点的に進める取組ですけれども、今回、当面の取組が具体化されているので、これであればここの欄を起こす価値がある気がしますけれども、ここで取り上げられる四つについてどういう切り口で打ち出すのかというのは、さっきのオープンハウスの中で市民の皆さんが、はぐくみの軸の強化方針と都心のみどりづくり方針について、上位三つを大切にしてほしいということで挙げられていましたけれども、それは順位も含めて全く同じなのです。

はぐくみの軸で言うと、１位は、居心地がよくて歩きたくなる、みどりのほうでいくと居心地のよい環境をつくってほしい。２位はみどりをいっぱいにということで、みどりづくりのほうでは自然と触れ合うということを言っているわけです。

最後に、はぐくみでは象徴性ということを言って、みどりのほうでは個性あるという言い方をしていて、これは、順位も対象も、市民の皆さんが今後このエリアに求めることというのは共通しているということが言えると思うのです。

できれば、オープンハウスをやったという経緯も踏まえて、最初の三つの重点的に進める取組というのがそういう三つのキーワードと連動しているという表現をタイトルなりに盛り込んでいただくと、かなりすっきりして、なぜこれをやらなければいけないのかという説得性が出てくるという気がしました。

最後の計画の進行管理ですけれども、ＰＤＣＡというサイクルについては、かなり言い古された言い方ではあるのですが、今回は方針ですから計画とは違うと思うので、ＰＤＣＡというサイクルが適切なのかどうかは疑問な点があります。

最後にプランに戻ってくるのは、この方針を常に３年とか５年でローリングしてくという進め方ではないと思うのです。むしろ、こういう投げかけを市民や事業者にすることによってチャレンジをして、チャレンジの結果を振り返りながら、そこから計画に反映したり、制度に反映したり、事業に反映したりするというつなげ方をしていくのがこの方針の役割だと思うので、いろいろな細かなドゥとかトライとかチェックがあって、それがスパイラル的にほかの計画に実現化してく、そういう流れとして示していただいたほうが方針の位置、特色が分かりやすく伝わるのではないかという気がしました。

最後に、分かりやすさという点で言うと、現在、都心のみどりづくり方針とはぐくみの軸の方針が並行して検討しているということがどうしても気になるのです。これらが一体になって初めて大通がどうなるのかを語ることになると思うのです。居心地がいい大通と沿道がもっとつながるようにということで、では大通はどうなるのかというのは、今、ほかのところでやっているから空白になっているのですけれども、できれば、この評価方針がまとまって都心のみどりづくり方針も決まった後に、その二つを統合した大通の将来像を分かりやすく示していただきたいのです。新たに計画や方針をつくる必要はないですけ

れども、市民や事業者に投げかけるアウトプットをつくっていただけるとよりいいと思います。

○村木座長　要は、計画の目的は一体何なのかということも関係してくるのかなと、今、ご指摘を聞きながら思ったところですけれども、それが明確でないと、一番最後のＰＤＣＡも何のためにつくるのかということになると思うので、その辺りはどうお考えなのか、今のご指摘に対してお答えになれることはありますか。

○事務局（岩田都心まちづくり課長）　６ページに本方針の活用イメージということで一旦記載しております。ここで記載しているのは、市民、企業、行政が将来像を共有して、この方針を常に手元に置いて、具体的な事業や計画を検討していくという使い方を一旦は考えておりました。

ただ、６８ページのＰＤＣＡの話ですが、何か取組をしてこの方針だけを随時改定していくということは考えにくい気もしますので、6ページと６８ページの取扱いは改めて我々としても考えていきたいと思います。

それから、ＰＤＣＡでこの方針をチェックしていくということですけれども、はぐくみの軸だけの方針の進捗をチェックするということも当然あると思うのですけれども、そもそもはぐくみの軸だけではない、都心全体、都心まちづくり全体をどういうふうに進行管理してチェックしていくかということも併せて検討していきたいと思っています。

○村木座長　６ページについて、先ほどのご説明等を聞きながら思ったのですが、強化方針だから、あくまでも方針です。方針の活用として、いろいろな関係者が取組の方向性Ａを見てこういうことを実現していくと考えるとすると、例えば、居心地がいいという形容詞は人によって感じ方がすごく違います。居心地のいいものをつくるというのは、ビジョンの段階ではいいのですけれども、本書の活用イメージで具体化の段階に行くと、そこにかなりのギャップが出てきます。

強化方針のときはそれでいいのでしょうけれども、実現との間に何かしらの次のステップが必要な気がしていて、それは、この後にビジョンをどういうふうに活用していくのかだと思うのです。それは皆さんにお任せしますではなくて、市としてその中で大事だと思われるものは何らかのツールを検討するという方向性がないと、きれいな計画ができましたねということになるのではないか。

一番最後に出てくるＰＤＣＡも、何をやったからこの方針の実現に一段階近づきますということをするのだったら、このＰＤＣＡを書く必要性はあるのではないかと私は思うのです。これをつくった後に、市としてどういうステップを踏んでいくのかということと関係するような気がします。

○事務局（佐藤推進担当係長）　５ページの方針の位置づけの表をご覧いただきたいと思うのですけれども、一番下の方針を策定した後のところに矢印を引っ張っておりまして、具体的取組というところで、例えば、この方針に基づきまして必要な都市計画決定につなげていくとか、地域別のまちづくりの取組を進めていくとか、その他個別施策の展開につ

なげていくとか、先ほどおっしゃられていた何らかのツールという部分につきましては、具体化していくための取組を検討していく中でツールを用意してくという考え方をしているところです。方針の段階ではまさに方針にとどめておいて、それを実現していくためには、個別具体の取組を検討していく中で熟度を上げていくというか、そういったステップを踏んでいきたいと考えているところでございます。

○村木座長　ほかにご意見はありませんか。

○藤井委員　何回か出ている中で、いまいち理解できないところがあります。次の１００年先に向けた最初の２０年の基本方針を策定していくということですが、その最初の２０年の間に行動には移していかないのでしょうか。

○事務局（佐藤推進担当係長）　２０年の間で行動に移していきます。策定した後に、いろいろな取組がこの方針にひもづいて展開されていくことになると思うのですけれども、例えば、すぐできるもの、検討に時間を要するものと、いろいろあると思いますけれども、できることから、さらに課題が大きいものに関してもチャレンジしながら、実現に向けて取組を推進していくというイメージです。

○藤井委員　すごく立派な資料だと思うのですけれども、素人目には、どうも文字が多くて、これを全部読むという気になれないので、出だしにイメージが湧くような写真なり、絵なり、海外のいい事例の写真があったり、この部分はこんな雰囲気を考えていますとか、この辺はこういうイメージでいきたいとか、分かりやすいものがあると入っていきやすいと思いました。

○事務局（佐藤推進担当係長）　かしこまりました。テキストの文量ですとか、さらには見せ方というところも含めて工夫していきたいと思います。

○村木座長　ほかにいかがですか。

皆さんから出る間に私から申し上げますが、さっきの５ページについてです。

今の藤井委員のご指摘もそうなのですけれども、今後どうするのかというときに、個別の事業が出てきましたということで、再開発とか都市施設整備のような具体化するものは、待っていないと出てこないのです。仕掛けるものが地域別まちづくりの取組であり、こういう価値を高めるためにこうしたいという具体的なものですね。確かにそれは都心全体にということもあるのでしょうけれども、わざわざはぐくみの軸についての強化方針をつくるのであれば、札幌市としてはさらにこれをやりたいのだという価値を高める仕組みを考えるとか、そういうことをご検討されるといいなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○事務局（岩田都心まちづくり課長）　価値を高める仕組みまでは検討が深まっていないのですけれども、まず力を入れて取り組んでいきたいという思いは６５ページ、６６ページに表現したつもりでございます。

それから、ここにはっきり書いていないですけれども、札幌市として開発の動きが起きることをただ待っているのではなくて、当然、我々から地権者をはじめとした方々に呼び

かけて、例えば、まちづくりの勉強会から始めて、地域のビジョンですとかガイドライン的なものをつくるお手伝いをした上で、最終的にはツールとして、例えば地区計画ということもあると思いますけれども、そういったものを使って、なるべくこの方針が実現するようなことをどんどんやっていきたいと考えています。

○事務局（佐藤推進担当係長）　６６ページの４の地域の取組の連鎖の説明書きの二つ目に、「札幌市は、引き続き市民・企業等の主体的な地域の取組と協働していくことはもとより、新たな地域の取組を醸成し、積極的に促進していきます。」ということで、仕掛けていくという札幌市の考え方を示させていただいています。

○村木座長　ほかに何かありますでしょうか。

○西山委員　前回、いろいろ発言した内容に丁寧に対応してくださっていて、発言のかいがあったと思うのですが、なおさらちゃんと言わなければいけないと思うと、ここまで具体的に出来上がってきたものに意見が言いにくいところもございます。

前置きはいいのですが、ご欠席の愛甲委員が言われた一番最初の意見に私は賛成です。要は、緑の配置の在り方とか、公園と両側の沿道の建物とか、足元の空間との一体性みたいなものは、私は前回も申し上げたけれども、第１回からずっと課題なのです。

はぐくみの軸の検討会があったから５年後とか１０年後にやっぱり変わったなとか、緑の在り方も、漠然と木がいろいろなところに植わっているのではなくて、ちゃんとデザインされて計画的に再配置されて、このエリアに関しては、まさに沿道の建物との一体性とその間を走る車の扱いが本当に変わったなと思われるとうれしいですね。

強化の考え方の断面パースがあって、私も絵やパースを描くときに木をどう描くかはとても難しいけれども、五平餅みたいな緑の半透明の木があまりメッセージ性がなく並んでいるのを見ると、先ほどもどなたかおっしゃいましたが、文字から読み取れと言う前に、せっかく描く絵なのですから、見たらメッセージが伝わるようにしてほしいですし、少なくとも愛甲委員が言ったものをこの絵からはなかなか感じづらくないですか。皆さんはどうでしょうか。

非常に難しいのは分かるのですけれども、ランドスケープデザインの専門の方が愛情を持って、そして、この検討会でずっと議論してきた内容を酌んで描くと、ちょっとは違うはずだと思います。断面をどこで切るかというと、普通は一番見せたい場所で切りますけれども、これは切れた断面の絵がちょっとプアな感じがするのです。建物の中にいる人とか断面の目の前にある木々の在り方が、一番奥のほうにあるのと同じように、ただ並んでいます。

ということは、愛甲委員の名前ばかり出して申し訳ないけれども、愛甲委員の意見にあった緑の再配置の問題や、今ある駐輪場などが裏表をつくり出しているという第１回からあった指摘、そして、その両側の商業的な活動、足元の建物の活動が緑を介してどうつながるか、また、未来には種類も量も変わってくる車をどう扱うのかという前回行われた議論が絵としては表れていないし、文字的に読んでも少し弱い気がするのです。

それは、重点的な取組の３番目の道路空間の利活用という言葉におりているのです。道路空間の利活用でそんなことができるのか、今、私が言ったような、もっと一体的な民間の足元の土地、歩道、車道、大通公園の敷地、これをどういうふうにつなげていくのかということを６５ページ、６６ページのところでどう読み取ったらいいのかと思って読むのだけれども、ちょっと弱いのではないかと感じます。

５ページで、この計画は次にどういうふうに展開していくかということは、かなり地味に、５ページのフローの下の矢印で、必要な都市計画決定をして、地域別にはまち並みをやってとあるのだけれども、本当はこういうことがもっと後ろのほうに、この方針ができたことによって、このゾーンに関しては、都市計画上のどういうセクションに対して、公共事業としてはこういうことをやります、民間にはこういうことを協力してもらえます、都心のみどりづくり方針とはこういうふうに乗り入れてこの部分をやっていきますというように、最後の６８ページの６－１辺りはもっとたくさん、どんな関係部署がどういう力で、官民協働だから、官のほうは、規制を緩和したり、規制をしたり、補助を出したりというふうに法制度を使ってやるわけだから、どういうセクションのどういう権限がこの方針実現に関わっていて、それに対して、今まではやっていなかったことにこういう視点を入れて、民間のコントロールに関しては誘導していきますので、公の事業、公共事業に関してはこういう考え方をというように、何となく縦割りでそれぞれのセクションがこれを読んでやるのではなくて、そういうところがお互いに集まって今までできなかったようなことをやる、そうするためにはどうしたいのかということがここにもうちょっと書かれるといいと思いました。

要するに、この方針が行政内ではどういう意味を持って、民間に対してはどういう指針になってということが分かるといいなと思いました。あまり具体的な話ではないですが、そういうことを感じました。

○村木座長　何か答えられますか。

○事務局（佐藤推進担当係長）　イメージパースにつきましては、愛甲委員からもご意見がありましたので、いろいろ工夫して、イメージできるようにしていきたいと思っております。

最後の重点的取組の部分につきましては、ご意見を踏まえまして、どこまで書き込めるのかどうかを含めて検討させていただければと思います。

○村木座長　ほかに何かありますでしょうか。

だんだん字が増えてくるのも気になるところですね。先ほどの藤井委員のご指摘を伺いながら見ると、確かにそうだなと感じました。今後、開発をされる方が見たときに、ここを読んで、こっちを読んで、後ろを読んで、結局何が一番心に残るのかというところで、あまり字が増えてくると分かりにくいかもしれないという感じがしました。

例えば、強化の考え方も、今、私がぱっと開いたのが５１ページで、番号がいろいろ書かれているのですけれども、想定される主な取組例でも同じようなものが何回も出てくる

のです。それが全ゾーンに共通する取組例とそうでないものがあり、こちら側が考えていることが読み手側にすぐ伝わるかというと、書き過ぎているために何が言いたいのかが結果的に分からなくなることもある気がしています。全体的に字が多いので、下の絵と上に書かれていることとの差とか、同じものが２回出てくる、全ゾーンにとわざわざ書かれていながら、西Ｃゾーンのページであればそんなに書く必要性が本当にあるのかとか、もう少し単純化するとどうなるのかというように、読み手のことを考えてあげることも大事なのかもしれないという気がします。

ほかにいかがでしょうか。

会が大詰めになってくると、本書のイメージができてくるので、そうなると言いにくいこともありますから、お気づきのことがほかにありましたらご意見をどうぞ。

○大谷委員　これを言うとまた字が増えてしまうかもしれませんが、いろいろな取組というのは誰がやるものなのか、行政がやることなのか、市民がやることなのか、事業者がやることなのか、もしくはその組合せでやることなのかということをはっきり書くと、受け取るほうが分かりやすくなるのではないでしょうか。

○事務局（佐藤推進担当係長）　それぞれが進めていくことにはなるのですけれども、何かしらうまい表現ができないかどうか、考えてみます。

○村木座長　ほかに何かお気づきのことはありますか。または、札幌市から、ここのところはどうでしょうかというものがもしあったら伺いたいと思いますが、いかがですか。

○事務局（岩田都心まちづくり課長）　現在の案は字が多くて分かりづらいというのは、全くそのとおりだと思いますので、引き続き検討していきたいと思います。

取りあえず、今日の資料は、先ほどの５１ページ、５２ページを見ると、ほかのページをめくらなくても西Ｃゾーンの取組がここに全部書いてある、ここに詰め込んでいる、という意図がございました。

今は、各ゾーンのページを見ると、ほかのページをめくらなくてもそこのことが全部書いてあり、逆に、５７ページ以降の一覧表は、将来像が１番から１２番までありますけれども、将来像のところを見たければほかのゾーン全体が分かるという意図で検討したものでございます。

ただ、先ほどの文字の分量の話や、分かりやすい写真なりイメージなりの話は早急に検討していきたいと思っています。

○村木座長　本書の使い方として、西Ｃゾーンはここを開いただけで全部分かる、全体を知りたい場合は何ページを見ろというものがあると、読み手の人は全部読まなくてもいいということが分かるかもしれませんね。

○事務局（岩田都心まちづくり課長）　まさに１ページから最終ページまで全部を読んでもらおうとは思っていなくて、そこら辺の説明書きを分かりやすくして、「ここを見てほしい」というところも工夫して記載していきたいと思います。

○村木座長　お願いします。

委員の皆さんから、ほかに何かありますか。

○石塚委員　文字に頼らずに整備のイメージを伝えていくというと、各ゾーンごとのポンチ絵が大きな役割を果たす気がするのですけれども、大体のイメージはこれでフィックスなのですか。

ゾーンごとの特色をきちんと伝えていこうとか、文字を見なくてもここで目指すことはこうなのだということが伝わるのが理想ですね。そう言うと語弊があるかもしれないけれども、西Ａと西Ｂの図は、単に左右逆転させてコピペしただけですね。人の位置も全く同じです。

時間がなくてこうなっていると思うのですけれども、せっかくゾーンごとに分けて、西Ａゾーンは、文化交流、にぎわい、大通との積極的な連携を図っていく、西Ｂゾーンは、もう少しライフスタイルに寄り添って、そこに暮らす人とか働く人が大通を活用してくというイメージですから、それがポンチ絵から読み取れるように丁寧に表現していかなければいけないという気がします。

文字を減らすとすれば、これは断面パースだけで全て語ろうとしていますけれども、部分的に抽出するという作業が必要になるのではないでしょうか。大通と沿道建物が一体に利用されてこういうにぎわいができるということは、この絵だけではなかなか表現しづらいですね。

そういうことや利活用のイメージも、単にカフェが出て、そこに移動販売車が来るという将来像ではないですね。もう少し札幌が世界に打って出るという個性をつくるためのベースとしてオープンスペースがあったり、利活用があったりするというシナリオなわけですから、それが伝わるような表現をしないと、もったいないという気がします。

ですから、村木座長たちが言われているように、一目で分かりやすく訴求するといったときに、ここのビジュアルの意味は多くなりますね。盛るべきことは大体のレベルで盛られているとしても、それをどう伝えていくかというところはもう一工夫や二工夫が必要になるのかなという気がします。

また、重点的取組についても、ここそもう少し戦略性がないと前で書いていることとあまり変わらなくなってくるので、さっきおっしゃられたように、どういう仕掛けをしていくつもりなのか、どういうステップを踏んでいくのかということだと思うけれども、今のところは地元に投げている感が強いので、それだけだとどうかなという気がします。

もちろん、地元の方々が理解、賛同してくれないと事が進まないのはそうですけれども、その勉強会を始めるよう仕掛けたからといって物事が動くということではないという気がします。

大通は、ゾーンに分けてもゾーンの中でも様々ですね。ということは、関係者それぞれの立ち位置が違うわけだから、その立ち位置の違いをさらけ出して議論を始めても、やっぱり将来像を共有したり描いていくことは難しいと思うのです。そこに行政のリーダーシップなどが求められるところがあって、そこでどううまく仕掛けていくかということを本

当にきちんと考えていかないと、先に進まないのではないかという気がします。

そこは、全般に書くというよりも、重点的に取り組むべき施策というところで少し踏み込んだ書き方をしていただくと、市民や事業者にも市の覚悟が伝わって、動くきっかけになるかなという気がしました。

○事務局（佐藤推進担当係長）　ご指摘を踏まえながら、そこは強度をつけて書けるように考えてみます。

○村木座長　ほかにありますでしょうか。

○藤井委員　今、現状の大通公園の活用として、オータムフェストもすごい人気だし、ビアガーデンがあったりします。ああいうものは市民も喜んでいる中で、将来的に残していきたいものかと思うのですけれども、形は変われど、そういった行事もできるような公園づくりができたらいいなと思います。

○事務局（佐藤推進担当係長）　イベントの利用と憩いの空間の両立を図っていくという考えをこちらの方針に記載してございますので、イベント利用を全て排除しているということではないです。

○村木座長　ほかに何かありますか。

○事務局（稲垣都心まちづくり推進室長）　都市まちづくり推進室長の稲垣でございます。

前回、個人的事情で参加できなかったのですけれども、オンラインで全てお話を聞いておりましたし、議事録も読みましたし、一連の議論を最初からずっと拝聴させていただいております。

今日に至って、我々の中でも、計画の構成とか将来像の理論構成を含めて何度も何度も議論を重ねてきて、各委員からもいろいろなご意見をいただいたので、少しずつ少しずつ収れんというか、整理がされてきていると思っております。

まず、いろいろなご意見をいただいたことに改めて感謝したいと思いますが、さりながら、改めて今日のご意見を聞く中で、強弱のつけ方とか、伝え方とか、まだ工夫が足りない部分があるなと思いましたので、一応、このスケジュールで進めていきたいと思っていますけれども、せっかくつくる方針なので、しっかりとメッセージが伝わる形にするため、さらなる工夫を内部で進めさせていただきたいと思います。

もう１点は、今日のお話のテーマとして非常に大きかったのは、方針をつくって、それで行政としてどうなのかという論点が大きかったと思います。当然、我々としても、投げっ放しにして待っているということではなくて、次なる戦略というか、問題意識を持って物事を前に進めていきたいと思っているからこそ、この方針策定に着手したということがそもそもあります。

例えば、今日の資料４の４ページに上位計画の図があって、都心の骨格構造がありますと紹介していて、そのうちの一つがはぐくみの軸ですけれども、行政として、都心の大事な軸はここですというお話をしているのですが、軸を一気通貫でといいますか、全体で掘り下げて方針をつくること自体が実はきちんとできていないのです。駅前通で、チ・カ・

ホの整備を含め、沿道のまちづくりをということは当然やってきているのですけれども、南も含めて全体としてどうなのかということは、実はまだ議論が掘り下げ切れていないところがあります。そんな中で、今、これから変わっていくであろう、あるいは変えていくべきであろうはぐくみの軸について全体を捉えて方針をつくること自体も戦略の一歩目である、これは言い訳っぽくなるのですが、そんな思いで着手した方針です。ですから、これをつくって終わりではなくて、さらにゾーン別あるいはポイント別に次の作戦を我々としてもしっかり見せていきたいと思っていますので、特にその部分については意識して、最終的な案の整理に入っていきたいと思っています。

それに関連して、石塚委員からありましたように、都心のみどりづくり方針と同時並行でやっていて、大通全体としての一体感を行政としてどうしたいのか分からないというのは、全くそのとおりかなと反省しました。

しからば、二つの方針を一つにした新しい計画をというご発言ではなかったので、そこは安心したところはあるのですけれども、だからといって、まとめたメッセージを発信する必要がないということでは決してなくて、今回のオープンハウスを共同でやったのもその問題意識が背景にあったからですので、最終的に方針をまとめた暁には、これらの上位計画の戦略ビジョンでどう発信していくかということも含めて、行政としてどうなのだということをしっかりメッセージできるように、我々も内部議論を引き続き深めていきたいと思っています。

○村木座長　今、室長がおっしゃったことは、この計画の一番最後にＰＤＣＡということが書かれるのであれば、そのようなことが認識できる書き方をされていくのもいいと思いました。

ほかの方はよろしいでしょうか。何か追加でご発言はありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○村木座長　ご意見がなければ、本日の検討会は終了となります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

進行を事務局にお返しします。

５．閉　　会

○事務局（岩田都心まちづくり課長）　本日は、多くのご意見をいただきまして、ありがとうございました。

議事録につきましては、皆様に内容のご確認をいただいた上で、後日、ホームページにて公開をさせていただきます。

次回の検討会につきましては、１１月１５日火曜日１５時から、本日と同じこの会場での開催を予定しております。開催が近づいてまいりましたら、改めてご案内をさせていただきます。

本日は、以上で閉会いたします。

どうもありがとうございました。

以　　上